

from the good Earth

よいちだより「良い地より」

vol. 14
2016.2

ドイツは今

欧州28ヶ国の国境を取り払って一つの国にし、域内の関税が撤廃され現在のEUが出現しました。そうすると高付加価値型製造業や金融に長け、しかも地理的に有利な丁度中央に位置するドイツが、この十年程で全欧州を（経済と政治とで）制覇してしまいました。もっとも同時にギリシャ問題やらシリア難民問題も一手に引き請けなければいけなくなったのもドイツです。（と、ここまではTVの池上さんの解説みたいですね。）

明解なる合理主義とそれに伴う責任論。ぶどう作りやワイン作りと直結した人生論。これら自分の人生でもっとも大切なことを幾つも教えてくれた国ドイツ。それ故この国は私にとって或る種の郷愁感を定期的に覚える対象でもあります。英語でhomesick、ドイツ語でHeimweh（ハイムヴェー。故郷を想う胸の痛みの意）が募ると、ですから何やら用事をこしらえて出掛けることとなります。この一月下旬、又行って来ました。

今回は私が偶然二泊した田舎町（人口1000人未満）の宿のレストランに、かのメルケル首相の右腕であるショイブレ財務相が昼食にいらしていたとのこと。ほんのタッチの差でお会いする（といっても、遠くから見ただけでしょうが）ことは出来ませんでした。ちょっと感激しました。彼は激務のさなか故郷の大好きな料理を楽しみに、よくこの店に来るのだそうです。20年以上前の若い頃、東京に数年修業で来ていた、このホテル・レストランのドイツ人オーナーシェフとは私自身も常連ゆえ仲が良く、彼がこっそり教えてくれました。それにしても南ドイツの田舎にありながら、シェフの経歴よろしく魚料理や日本風の味付けのこの店が好きとは、ショイブレ氏もきっと日本ファンなのでしょう。そういえば我が吉田茂首相と並び称される敗戦国ドイツ再興の英雄たるコンラッド・アデナウアー。この人物の名前の付いた通りはあちこちの町にありますが、そのアデナウアーに負けず劣らず人気の高かった50年以上前のテオドル・ホイス大統領。この人もこの店のファンだったとか。ホイスと現オーナーシェフの父親も仲が良く、その父親は息子を日本に修業に出しました。大きな親日の輪がここに存在していて、それ故このすぐ隣の人口2万人の町ブラッケンハイムにはリコー、三和シャッター、ダイキンと日本の大手3社が欧州工場を持ち、町の財政を潤しているとのこと。今迄、二度お会いしたこの町の市長（どういう訳か人口2万でも市です）は、日本のお陰で我が町があるとばかりに、何の関係もない、この町にかつての同級



生が居るだけの私を歓待してくれたりします。

帰り来てTVは甘利氏のスキャンダル。大事にたずさわる人がどうしてつまらない金銭ごとに関わるのでしょうか。TPPの難交渉に耐えている姿を見て、ちよつぱり敬愛の念すら抱いたのは私だけではないはず。残念というか、勿体ない。だってそうでしょう。冒頭の現在ドイツの勇姿（憂姿も同時に感じられますが）は、決して偶然ではないのです。論理の必然として、70年の時間を費やして成された以上、ドイツの政府首脳陣の深謀は、一般国民にも良く理解されているのですから。日本の現政権に与みするかどうかということは別にしても、今回の仕儀はお粗末の一語に尽きます。世の政治家の皆さん、銀座なんかで飲んでないで、私の店に来て良い景色を眺めながら、漂う新酒の香りに浸って命の洗濯でもしてみてください。ここにも地方創生の面白い種がありますので。

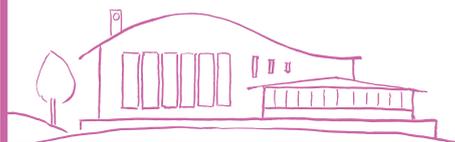
同窓生のワイン村

Kuhnle(クーンレ)君、59才。ドイツのワイン学校での私の一期下。在学中は一度も彼の父親のワイナリーを訪ねたこともなかったのに、今回はどうしてもという思いで訪ねました。

手もとに大きな写真カレンダーがあって、11月の頁には「晩秋。色とりどりのぶどう畑に囲まれたシュトゥリュンブフェルバッハ」と舌を噛みそうな名前のワイン村遠景が載っています。茶色い屋根と白い壁に統一された200軒程の集落を取り囲むように、十筋程毎に違う色に染まった約800haのぶどう畑。11月ということ考えると、手前の赤い葉の畑はピノ・ノワールカリンベルガー。その次の黄色い葉はシャルドネカムスカテラーでしょうか。後方の丘の上、まだ緑濃い畑は最晩熟のリースリングに違いありません。このワインぶどう畑の美しさに魅かれて、一年中來訪者が絶えないからというよりは、自分達の生まれ育って住んでいる村だからという考えから、常に集落もぶどう畑もそして外周の森までもとてもきれいにしています。

ドイツの学校の同窓組織のツテで探ったところ、クーンレ氏の名前が出て来ました。訪ねるや、かつてのやんちゃなお兄ちゃんとは私と同様のオジさんになっていて、奥さんと30代の息子、そして冬のぶどう畑の仕事をしている6人のスタッフともども大量のワインと昼食のおもてなしを受けました。我が愛すべき母校は「同窓の間からは飲み食いの代金を取ってはならない」という不文律を持っていて、同伴の他の2名の日本人と一緒に気軽にタッピーご馳走になりました。

食後、彼の畑や醸造蔵を見せて貰いながらの話。“現在何ヘクタール？”「24haさ」（ということはワインにして20~30万本かな。）“品種はどれ位？”「39品種。」（多品種で結構いい値段だから、年



商3~4億円位かな、と私は想像。)“この村には何軒醸造蔵があるの?”“昔は何十軒もあったけれど、丁度僕がワイン学校に行っていた頃にうち一軒だけを残して他は統合し、組合立のワイナリーになってしまったんだ。でもこの10年程の間にその組合から再び独立して、あと3軒うちのようなのが出来た。よって個人ワイナリー4軒、組合立1軒だよ。”“この村のワインぶどう畑細面積は?”“800ha。”(と、ドイツ人の返事はいつもデータが正確にきちんと出てくる。)“この村の経済規模は?”“ワインが平均1000円程で年間製造量が無理なく800万本だから80億円。あとレストランやホテル(宿)が数軒ずつあって数億円、パン屋さんや鍛冶屋さん、肉屋さんに幾つかの小売店、それに花作りや野菜作りをしている農家も数軒あって全部併せると100億円位かな。”(へえ、ビックリ。)“君のところは直売だけ?”“直売だけでワインを20~30万本売るのは無理だ。近くの大都市シュツットガルトに出掛けてダイムラーやボルシェ、ポッシュの各社にも大口で捌いているんだ。彼らが営業用のアイテムとして世界中のお客様にプレゼントしてるらしい。”

我が町が学ぶべきこと

自分の住んでいる町がどのような経済活動に依拠しているか、と考えることは特に田舎の衰退しつつある町に居る人々にとって

は重要と考えます。ところが我が町は、衰退のスピードが余りに早く、それ故に「どうせ何をしてしても無駄さ」と人々を無気力にさせます。でも、再起の処方箋は必ずあります。

前述ドイツの友人の村は僅か1000人弱の定住人口ながら、ケーキ屋を兼ねたパン屋さんも、ソーセージ工場を兼ねた肉屋さんも、村中の人々のための鉄仕事をする鍛冶屋さんもあり、ホテルやレストランもあります。そして集落の人すべてが喜々として毎日を生きています。我が町余市と、どこが違うのでしょうか。何かが異なっているのは確かです。

『田園回帰1%戦略』の藤山浩氏の論ではありませんが、住んでいて充実した気持ちでいられる集落というものは、現に住んでいる人々や行政がきちんと発想し、展望・行動しなければ生まれません。世捨て人ばかり集まってもダメですし、行動の伴わない空理空論の徒はもってイケません。

展望(ヴィジョン)をしっかり持って、一年ずつ確実に実績を積み上げて行く。会員の皆さんがこのOcciGabiを訪ねていらした時に、以前より更に良くなったと実感して頂けますよう行動し続けます。

落 希一郎



2016年プレゼントワインの交換が始まります。詳しくは同封のハガキをご覧ください。

INFORMATION

ワイン会

すべてのワイン会はご予約制です。
お電話またはメールにてご予約承ります。

新酒のワイン会

2016年3月20日(日)

時間 17:00~19:30

会費 12,000円(税別)

●お料理9皿+ワイン6種

落希一郎ワイン講座

2016年4月9日(土)

時間 15:00~17:00

会費 2,000円(税別)

●ワイナリー案内・ワイン講座と
ワイン6種+おつまみ



千歳MEON農苑様にて
(千歳市蘭越1625-6)

OcciGabiワイン会

2016年4月17日(日)

時間 12:00~14:00

会費 5,000円(税別)

●ココット料理とOcciGabiワイン5種



小樽アンディーアモ様にて
(小樽市福穂2-16-11)

OcciGabiワイン会

2016年5月28日(土)

時間 17:30受付開始

18:00スタート

会費 8,000円(税別)



OcciGabi Garden Party

2016年6月11日(土)

時間 15:00~17:00

会費 3,500円(税別)

●余市から送迎有
●フィンガーフードとワイン全種
庭でロースト料理をサービス



OcciGabi Winery
Restaurant & Garden
Wedding

オチガビ ワイナリー ウェディング

<30名~50名>

今春5月下旬よりスタート!!

ご予約承ります。

ご希望の方はお問い合わせください。



お問い合わせ
ご予約



株式会社 OcciGabi 〒046-0012 北海道余市町山田町 635

tel.0135-48-6163 / fax.0135-48-6164

携帯:090-6198-5501

E-mail occigabi@ae.auone-net.jp